

新しい薬学をめざして

Vol. 53 No. 2
2024.2.1

発行 新薬学者集団

〒555-0024 大阪市西淀川区野里3丁目6-8

E-mail sigma-info@faruma.co.jp

一般社団法人大阪ファルマプラン 気付

郵便振替口座 01090-8-16463

TEL 06-6477-8088 (担当 廣田) FAX 06-6477-8090

URL <http://pha.jp/shin-yakugaku/>



ミニゼミ報告

福島ofいま (その93)

ALPS 処理汚染水海洋放出は “住民”の復興と廃炉促進に寄与するか (2)

佐藤政男

2024年1月1日に能登半島地震が起きた。亡くなられた方にお悔やみを申し上げ、対象地域の皆さんにお見舞い申し上げたい。この地震は余震が多いのが特徴だという。一刻も早く生活・健康維持体制ができ、震災関連死防止ができるように願っている。

2011年3月の福島原発事故では、稼働していなかった4号基は使用済み核燃料プールが何とか維持できたが、稼働中の1, 2, 3号基原子炉・建屋が水素爆発し、過酷事故になった。

能登半島地震当日、被災地志賀町にある北陸電力・志賀原発(1, 2号機)は稼働していなかった。当初、北陸電力は「影響は何もない」としていたが、2号機で外部電源を受けるために必要な変圧器から油漏れがあると訂正した。漏れた油の量は発表のたびに増え、当初発表の5倍超となった。敷地内の水槽での水位変動にも訂正があった。追加訂正は、福島原発事故の際にも数多く、電力会社の共通行動のようだ。

原発事故は原子炉だけではない。原発は原子炉に加えて多数のコードが繋がった構造物や運転をさせるための大きな機器の複合体で、多種多様に影響を及ぼす可能性がある。現在、多くの原発が再稼働を申請しているが、能登半島地震により、避難経路の確保は極めて困難であることが明らかになった。

能登半島突端の珠洲市では、北陸電力の“珠洲原発建設計画”を2003年に約30年かけて住民が断念させた¹⁾。大地震・津波がおこる度に、「原発はどうか」と心配・危惧すること自体が異常である。原発が事故を起こさない最低限の方法は「稼働しないこと」である。

目次

□ミニゼミ報告(2) 福島ofいま (その93) 佐藤政男……………265	□OTC医薬品をめぐる動き(その3) 緒方信明, 里見佳子, 野村充代, 寺岡章雄……………282
□医薬品等・行政評価監視委員会の活動内容(その7-1) 緒方信明, 里見佳子, 野村充代, 寺岡章雄……………272	□エッセイ 要介護2と要支援2の二人(その1) 三原啓子……………285
□緊急避妊薬(アフターピル)のOTC化をめぐる動き (その2) 里見佳子, 緒方信明, 野村充代, 寺岡章雄……………279	□玉枝の平和だよりから(22) 京都府宇治へ: 平和の歴史を学ぶウトロ平和祈念館・山 宣のバスツアー……………三宅直美・288
	□2023年度第7回運営委員会報告……………289